

北海道におけるカワウの群れの初記録

樋口孝城¹・広川淳子²・新城 久³

1. 北海道医療大学基礎教育部, 〒061-0293 北海道石狩郡当別町
2. 〒002-8029 北海道札幌市北区篠路9条2-11
3. 〒001-0027 北海道札幌市北区北27条西12-6

はじめに

日本におけるカワウ *Phalacrocorax carbo* の生息分布は、1970年代以前はいくつかの地域に限られていたが、1980年代に入ってから拡大がはじまり、1990年代に入ると本州、四国、九州の広い範囲に広がっていった(成末ほか 1999)。北海道ではこれまでに散発的な観察記録はあることになっているものの(日本野鳥の会北海道ブロック支部連合協議会 1991, 石川 1994, 藤巻 1998)、定常的な生息は確認されていない。筆者らは1999年春期、北海道石狩地方でカワウ成鳥生殖羽および若鳥の群れが滞在するのを観察したので報告するとともに、北海道へのカワウの生息拡大の可能性について考察する。

観察記録

観察地は北海道石狩支庁管内江別市八幡の石狩川と篠津川との合流点(43°08'N, 141°28'E)である。石狩川河口から直線距離で約15km, 川幅約200mの石狩川に川幅約30mの篠津川が開口している。岸辺近くは高さ3~6mのヤナギなどからなる河畔林である。

カワウの群れを最初に発見したのは1999年4月2日午前10時頃であった。木々の葉はまだ出ておらず、地面は数10cmの雪で覆われていた。また川面はすべて開水していた。群れからおおよそ100m離れたところからの観察では40~50羽が認められたが、流れの急な石狩川本流に出る個体は少なく、篠津川開口部近くの水面に浮かんでいたり、水辺の木の低い枝にとまっているものが多かった(図1)。翌3日午前10時頃には、見える範囲で86羽を確認した。観察者がおおよそ50mまでに近づくと警戒して飛び立つ個体が多く、個体数を正確に把握することは困難であったが、死角になる場所にもかなりの個体がいるように見え、総数は100羽前後と推察した。個体数の最大をかぞえたのはこの4月3日であった。以後いずれも午前10時前後の観察では、4日に40~50羽、10日に約40羽、11日と18日にいずれも約20羽、21日に10羽、24日に2羽、25日に5羽であった。4月10日までは群れは合流点にほぼ集中していたが、以後は合流点から篠津川上流約500mまで、および石狩川上下流約300mにまでまばらに広がるようになり、その範囲内での飛翔による移動がときおり観察された。5月1日および2日には1羽も確認されなかった。以後、ほかの調査目的で合流点およびその周辺を数回まわったが、

1999年11月8日 受理

キーワード: カワウ, 北海道, 分布



Fig. 1. Great Cormorants observed on at the confluence of Ishikari River and Shinotsu River, Hokkaido.

6月5日に合流点から約1km下流の石狩川で2羽が確認されたのを除いては、夏期間に至るまで記録はない。

合流点での群れには採食行動は見られず、休息を取っているものと思われた。時折少数が一群をなして、多くは石狩川に沿って上流部へと飛んでいくのが見られた。可能な限り追跡を試みたが、上空高く、数km以上も飛んでいくことが多く、それらの個体がどこかに採食に出かけるのか、あるいはそのまま他地域に移動してしまうのか判断はできなかった。また、早朝合流点に飛来する個体もいたが、それらが採食場から戻ってきたものか、新しく飛来してきたものかについても不明であった。

今回観察したカワウの群れは、1つの群れが滞在していたわけではなく、次々に飛来してきては一時的に休息し、またどこかに移動していく群れの連続であることが、群中の若鳥の割合から推察された。若鳥の数は断片的にしか記録していないが、4月3日には86羽中に4羽、18日には約20羽中に約15羽、21日には10羽中に9羽であった。このことは、初めは成鳥を主体とした群れが飛来し、その渡去と入れ代わりに、若鳥を主体とした群れが飛来してきたことを示唆している。しかしながら、初めの2、3日のうちにある程度まとまって飛来した群れのうち、成鳥のみが早く移動していったという可能性も残されている。なお、6月5日に観察された2羽はいずれも若鳥であった。

過去の状況および今後の課題

北海道でのカワウの記録はこれまでに非常に少ない。個人的にもたらされた未確認情報はいくつかあるが、公表され、信頼されるものとしては1978年8月および1991年8、9月に内陸の旭川での記録があるのみであり(石川 1994, 藤巻 1998), 1992年以降公表されたカワウの記録はない。しかしながら、カワウを見ても、北海道にはカワウはいないという先入観からウミウ *P. capillatus* と誤認され見逃されている可能性は十分ある。実際、筆者らは1998年以前にも今回と同じ場所で、同じ時期にウの群れを見ていたが、十分な注意を払わないままウミウとして記録していた。それらがカワウであった可能性は十分に考えられる。6月5日に観察された若鳥2羽についても、カワウかもしれないという意識的観察により確認されたものである。また、筆者ら以外の野鳥観察者からの情報には、1996年春に今回と同じ場所で数100羽のウの群れという記録もある(竹中万紀子 私信)。観察時期、場所、個体数を考慮すると、それがカワウの群れであった可能性はかなり高いものと思われる。

北海道におけるこれまでのカワウの観察については、記録の有無だけが記載されており、具体的に個体数をあげているものはない(日本野鳥の会北海道ブロック支部連合協議会 1991, 石川 1994)。ただ、未確認個人情報も含めて、関係者などからの聞き取り調査では、いずれも単独か、せいぜい2、3羽というところである。

今回北海道でカワウの大きな群れがはじめて確認されたが、それがどこから来て、どこへ行くのか全く不明である。日本における集団ねぐらおよび集団繁殖地の北限は青森県下北半島であるが(成末ほか 1998), そこから海を越えて群れが移動しているという観察記録は見当たらない。北海道石狩地方の河川にはウグイ *Leuciscus hakonensis*, コイ *Cyprinus carpio*, フナ類 *Carassius* spp. などが生息するが、冬期間は一部を除いてほとんどの河川が凍結し、多数のカワウを養うだけの食物の供給は困難である。しかしながら、春から秋までの生息はおそらく可能であろう。また、北海道南部では冬期間も凍結しない河川があり、上記の魚類に加えてアユ *Plecoglossus altivelis* も生息していることから、将来的にはそのような地域に定常的な生息域を拡大する可能性は十分に考えられる。

前述したように、北海道ではカワウを見てもウミウと誤認されていた例がいくつかあるものと考えられる。次年以降、カワウの食害を念頭に入れた持続的、意識的調査が必要であろう。

謝 辞

本短報をまとめるにあたり助言をいただいた日本野鳥の会研究センターの成末雅恵氏、帯広畜産大学の藤巻裕蔵教授、北海道東海大学の竹中万紀子氏に感謝の意を表す。また、調査にご協力いただいた石狩鳥類研究会の浜田強氏、樋口陽子氏に深く感謝する。

引用文献

藤巻裕蔵. 1998. 北海道鳥類目録. 帯広畜産大学野生動物管理学研究室, 帯広市.

- 石川信夫. 1994. 1991旭川周辺地域の鳥類目録 (大雪山を含む). 北海道野鳥だより 97: 3-11.
- 成末雅恵・加藤七枝・福井和二・松沢友紀・石田朗. 1998. 日本におけるカワウの集団繁殖地と集団ねぐらの分布. 1998年度日本鳥学会大会講演要旨集: 93.
- 成末雅恵・松沢友紀・加藤七枝・福井和二. 1999. 内水面漁業におけるカワウの食害アンケート調査. *Strix* 17: 133-145.
- 日本野鳥の会北海道ブロック支部連合協議会. 1991. 北海道地域別鳥類リスト. 野生生物情報センター, 札幌市.

The first record of a flock of Great Cormorants *Phalacrocorax carbo* in Hokkaido

Takashiro Higuchi¹, Junko Hirokawa² and Hisashi Shinjo³

1. Department of General Education, Health Sciences University of Hokkaido, Kanazawa 1757, Tobetsu-cho, Ishikari-gun, Hokkaido 061-0293, Japan
2. Shinoro 9-2-11, Kita-ku, Sapporo-shi, Hokkaido 002-8029, Japan
3. Kita 27, Nishi 12-6, Kita-ku, Sapporo-shi, Hokkaido 001-0027, Japan

A flock of Great Cormorants *Phalacrocorax carbo* was observed at the confluence of Ishikari River and Shinotsu River, Ishikari, Hokkaido in April 1999. This is the first record of this species as a flock in Hokkaido.

Key words: distribution Great Cormorants, Hokkaido